

令和5年度 江戸川区立篠崎小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

<p>学校教育目標</p>	<p>○よく考える子 ○心豊かな子 ○じょうぶな子</p>	<p>目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像</p>	<p>○確かな学力をたくむ学校 ○豊かな心と健やかな体をたくむ学校 ○保護者・地域から信頼される学校 ○基礎・基本を身に付け、自らすすんで問題を追究し、深く考え判断する子供 ○感性に富み、ともに認め合い、思いやりがあり、奉仕の心を行動にうつせる子供 ○心も体も健康で明るく、やがたく心体力があり、すすんで運動に取り組む子供 ○自発性と英知を結集し、児童一人一人を大切に愛情深く関わる教師 ○社会人として、教育公務員として、組織的に学校運営に関わる教師</p>
<p>前年度までの学校経営上の成果と課題</p>	<p><成果> 配慮を要する児童の様子や変化、それに基づいた対応の仕方について細やかに共通理解を図り、組織的に児童の支援にあたることができた。 あいさつをすすんで取り組む児童が増えている。児童発信での取り組みを更に充実させていきたい。 <課題> 学力向上について、「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」を基に、ユニバーサルデザインについて教職員で共通理解を図り、充実させる。 教職員の働き方改革を更に推進し、業務を効率化して、活力と愛情をもって児童と向き合う時間を作る。</p>		

教育委員会重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価コメント	
学力の向上	<学力の向上> ・授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	<p>○「誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン」の実施、評価、改善を行う。</p> <p>①教員の指導力向上 ・UDの視点から、授業中の学習過程を可視化する。 ・授業の導入で、前単元や前時の学習内容を想起する。 ・各教科等の各単元で問題解決型の学習を計画し実践する。</p> <p>②基礎学力の保障 ・週に1度の朝のモジュール学習で、確実に「ドリルパーク」に取り組む。内容は、国語と算数について隔週で取り組むこととする。</p> <p>③学習習慣の確立 ・「学年×10分」の家庭学習の実施を、保護者へも周知・依頼する。 ・えどダブルールの周知・徹底を図り、特に、家庭ルールについて毎学期末に児童自身の振り返りを行う。 ・5月実施の睡眠振り返り週間、学期始め実施の生活振り返り週間を活用して、規則正しい生活習慣の定着を図る。</p>	<p>(1) ・都の学力向上調査「自分の思いや考えをもとに、作品や作文など新しいものを創り出す活動を行いましたか」の肯定的な回答80%以上 ・学校評価児童アンケート「授業の内容がだいたい分かりますか。」の肯定的な回答90%以上</p> <p>(2) ・ワークテストの知識・技能観点について、習熟度に合わせ、当該学年の正答率を5割、7割、8割とする。 ・東京ベーンシットドリル診断テストについて、習熟度に合わせ、1学年または2学年下の正答率を5割、7割、8割とする。</p> <p>(3) ・都の学力向上調査「授業時間以外の勉強時間」 →6年児童1時間以上の回答割合80%以上達成 →4、5年児童、30分以上の回答割合80%以上達成 ・学期始めの健康振り返りカード「家庭で学習する(宿題)」の肯定的回答90%以上</p>	B	B	<p>(1) ・学校評価児童アンケート「授業は、わかりやすいですか。」 ○肯定的回答94%</p> <p>(2) ・ワークテスト(国語)6割以上 ○1年93%、2年86%、3年88%、4年96%、5年99%、6年90%。 ・ワークテスト(算数)6割以上 ○1年94%、2年90%、3年86%、4年93%、5年89%、6年87%。 ・東京ベーンシットドリル診断テスト(算数)6割以上 ●2年59%、3年38%、4年53%、5年61%、6年26%。</p> <p>(3) ・都の学力向上調査「授業時間以外の勉強時間」 ●6年の1時間以上学習する児童は約32% ○5年の30分以上学習する児童は81% ●4年の30分以上学習する児童は72% ・健康振り返りカード「家庭で学習する(宿題)」 ○肯定的回答97%</p>	A	<p>・学習の基本は読解力だと思ふ。読解力を育成する指導に取り組んでほしい。</p> <p>・授業のユニバーサルデザイン化を推進し、学習活動の流れの視覚化や、確実な課題理解のための視覚的提示を行っていく。 ・毎週の朝学習でのドリルパークの取り組みについて、教務作成の週案や職員室前のボードにも必ず記載する。 ・学年×10分は、確実に取り組ませる。決められたものをやり、学年×10分に足りない時間分は、選択肢を児童に示した上で、自主的に学習する内容を選ばせるといい。その際、ドリルパークも積極的に活用する。 ・江戸川区の「えどダブルール」の徹底について、個別に指導が必要な児童には、保護者へ連絡、連携して指導していく。また、篠崎小の「学校ルール」を受けての「家庭ルール」を各家庭で守らせていくために、学校での指導と併せて家庭で確認するように生活振り返り週間の項目に入れていく。</p>
	<読書科の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	<p>①探究的活動の充実 ・総合的な学習の時間を中心に、各教科等の学習と関連させた探究的活動を年間指導計画に位置付ける。その際、様々な分類の書籍を読めるよう配慮する。 ・探究したことを書いて話ししたりするなど、表現して共有する場を設定する。</p> <p>②読書活動の充実 ・始業前の15分間の朝読書を週2回を基本に実施する。 ・様々な分類を読むために、読書カードの十進分類表を用いながら、児童に紹介する。 ・異学年での読み聞かせ交流、読書バイキング(教員の読み聞かせ会)を実施する。 ・学校応援団(保護者ボランティア)による読み聞かせを学期に2回程度実施する。 ・図書委員会の児童によるほんの紹介を学期に1回実施する。 ・図書館司書、学校応援団による定期的な蔵書点検や学校図書館内掲示物整備を実施する。</p>	<p>・読書科に関わる学習活動における成果物(音声言語を含む)を毎学期作成する。 ・学校評価児童アンケート「読書や本を使って調べるなどの活動をすすんで行っていますか。」の肯定的な回答90%以上 ・下学年は3分類以上、上学年は5分類以上の書籍を、読書カードに記録している児童が80%以上。</p>	B	B	<p>○読書科に関わる成果物、全学年毎学期作成。 ・学校評価児童アンケート「読書や本を使って調べるなどの活動をすすんで行っていますか。」 ●肯定的回答76% ・下学年は3分類以上、上学年は5分類以上の読書 ●1年100%、2年64%、3年79%、4年80%、5年22%、6年14%。</p> <p>○蔵書管理がバーコード化され、貸し出し管理や蔵書管理がしやすくなった。 ○図書館支援員が毎週勤務することで、蔵書点検や整理ができ、図書館が使いやすくなっている。 ○2階の絵本の広場を活用して、休み時間等、自由に本を読むことができた。</p>	A	<p>・学年ごとに読書科計画を見直し、様々な分類に触れられるようにする。12時間の読書科の時間と朝読書、他教科の関連を図る。 ・読み聞かせボランティア依頼、子ども図書館の活用を、計画的に行う。 ・朝読書を含めて5分以上の様々な分野の本に触れるように、計画的に地域図書館からの団体貸し出しを行う。 ・図書館支援員をさらに活用し、各学年の学習活動に必要な本をあらかじめ用意しておいてもらうよう計画的に行う。</p>
体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上>	<p>○校舎改築に伴う運動スペース激減に対応した日常的な運動の場を確保する。 ・体育館と小校庭を活用した運動遊び(しあタイム)を学級ごとに毎週実施する。 ・区立公園や篠崎中学校校庭を利用した45分昼休み(あそぶでえー)を毎月2回以上実施する。 ・持久走と縄跳び運動の重点期間、及び、記録測定会を後期に実施する。</p>	<p>・学期始めの健康振り返りカード「運動をした。」の肯定的回答90%以上 ・学校評価児童アンケート「体育やあそぶでえー、体育館遊びの日や放課後の遊びなど、体を使って運動していますか。」の肯定的回答90%以上</p>	B	B	<p>・健康振り返りカード「体を動かして遊ぶ。」 ●肯定的回答74% ・学校評価児童アンケート「体育やあそぶでえー、体育館遊びの日や放課後の遊びなど、体を使って運動していますか。」 ●肯定的回答88%</p>	A	<p>・校庭整備の完了に向けて、校庭遊びの約束などを精査していく。 ・毎週、担任(専科)が入ったのクラス遊びを行う。 ・体育の授業では、学習に沿った確かな準備運動を行い、運動量を十分に確保する。</p>

共生社会の実現に向けた教育の推進	<p><特別支援教育の推進></p> <ul style="list-style-type: none"> ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 エンカレッジルームの活用促進 副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 管理職による授業観察と指導を毎学期実施し、授業改善を促進する。 専門家を招いた研修会を年間1回以上実施する。 毎週木曜日に個々の児童の支援体制を検討する特別支援教育推進委員会のミーティングを実施する。 特別支援教育コーディネーター・特別支援教室専門員・巡回指導員・心理士との連携を密にし、児童への指導方法や指導内容の共通理解を図る。その際に、連携型個別指導計画を活用する。 エンカレッジルームと職員室待機に、空きコマの教員を計画的に割り当てる。 児童と保護者の特別支援教室についての理解推進を行い、特別支援教室に通う児童への理解を高める。 副籍児童との定期的な交流を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「かえて教室のことを知っていますか。(がんばっている子を応援していますか。)」の肯定的回答90%以上 学校評価児童アンケート「自分と友達それぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」の肯定的回答90%以上 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「かえて教室のことを知っていますか。(がんばっている子を応援していますか。)」 ●肯定的回答82% 学校評価児童アンケート「自分と友達それぞれの良さやちがいに気づき、協力し合っていますか。」 ○肯定的回答93% 副籍交流を鹿本学園、葛飾盲学校と実施。事前に打合せを行い、毎学期、学級の中で授業を一緒に行ったり交流を行ったりした。 	A <ul style="list-style-type: none"> 学校生活、友達のことや心配や不安をもって児童もいるかと思う。気軽に相談したり言うことができる雰囲気や声かけをしていただきたい。 ジェンダーに関わる社会課題にも対応していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年に応じた、巡回指導教員と担任(専科)による理解教育を実施する。 1年生には、学級ごとに時間を設け、かえてルームの場所を説明をする。(学級ごと、休み時間等) 副籍交流を広げていく。 保護者へ特別支援教室や特別支援教育について、学校・学年・学級から周知していく。
子どもたちの健全育成	<p><子どもたちの健全育成に向けた取組></p> <ul style="list-style-type: none"> 不登校対策の実施・充実 エンカレッジルームの活用 hyper-QUの活用 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週金曜日に個々の児童の実態を共通理解するための生活指導夕会を実施する。 毎学期のふれあい月間にて、いじめ把握アンケートとともに、全学級で共通の取り組み(挨拶・いいところ探し等)を実施する。 「いつでもどこでもだれとでも」さわやかなあいさつ運動を実施する。 SCによる第5学年児童の全員面談を実施する。 hyper-QUの実施、結果分析に際して、事前に内容理解の研修会を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「先生方は、あなたの悩みや相談事を、聞いてくれますか。」の肯定的回答90%以上 学校評価児童アンケート「学校内の登下校の時に、先生やお客さま、出会う人、友達といつでもどこでも、だれとでも」さわやかなあいさつと返事を自分からしていますか。」 ●肯定的回答89% 学期始めの健康振り返りカード「かぞくで、「おはよう」のあいさつをする」の肯定的回答90%以上 	A A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「先生方は、あなたの悩みや相談事を、聞いてくれますか。」 ○肯定的回答93% 学校評価児童アンケート「学校内の登下校の時に、先生やお客さま、出会う人、友達といつでもどこでも、だれとでも」さわやかなあいさつと返事を自分からしていますか。」 ●肯定的回答89% 健康振り返りカード「かぞくで、「おはよう」のあいさつをする」 ○肯定的回答90% 	<ul style="list-style-type: none"> 近所で会う児童はよく挨拶をしなくなる。 元気な挨拶や返事は難しい。家庭でも地域でも心がけるようにしたい。 こちらから声をかけると返事をしてくれる児童もいる。 先生方もみんな自分から挨拶ができるという。 地域での安全な自転車の乗り方に心配になる場面を見ることがある。機会をとらえて、指導をしてほしい。 下校以降等、課外での行動に少人数ルールを守れないところが見られる。 上級生が下級生に対して親切に接している姿はよく見かける。 いじめ対応については丁寧に取り組んでほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎月第一週の週目標は、来年度も「あいさつ」とする。 あいさつ運動は、4月から毎月1学年程度、設定していき、児童から児童へ啓発活動を行う。 児童がいつでもどこでもだれにでもあいさつができるように、教職員が、いつでもどこでも誰にでも挨拶する姿を示していく。 学級指導に加え、登校班別下校の際にも、引き続きあいさつ(校外)の大切さを伝えていく。 登下校での歩き方、放課後遊びの仕方を随時指導する。 1年生の交通安全指導は、警察の協力の下、実際に通学する道路を使って行う。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<p><自校(園)の取組の積極的な発信></p> <ul style="list-style-type: none"> 学校(園)ホームページの充実等 学校(園)公開の実施・充実 	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、専科で毎月3回以上日頃の教育活動の様子をホームページにて発信する。 学校公開を年4回実施する。 保護者会を年3回実施する。 個人面談を年1回実施する。 希望する保護者がいる際は、随時、専科等を含む全教員による面談を実施する。 新1年生保護者説明会を年2回実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価保護者アンケート「学校だより・学年だより・ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」の肯定的回答90% 学校評価保護者アンケート「保護者会、個人面談(担任・専科教員など)、スクールカウンセラーとの面談等、保護者の相談に対応している。」の肯定的回答90% 	B A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価保護者アンケート「学校だより・学年だより・ホームページ等で教育活動や児童の様子をお知らせしている。」 ○肯定的回答95% 学校評価保護者アンケート「保護者会、個人面談(担任・専科教員など)、スクールカウンセラーとの面談等、保護者の相談に対応している。」 ○肯定的回答97% 1月学校公開セーフティ教室80名以上参加 	A <ul style="list-style-type: none"> 学校、児童のことが分かり、ありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育活動が様々伝わるように配信する。 各学年の学習活動、学校行事、食育、地域との連携など本校の特色を発信する。 各学年・専科は、毎月の学習を一人一回更新する。大きな行事などの分担を、それぞれ担当する分掌に割り振るなど、HP担当が検討、提案する。
	<p><学校関係者評価の充実></p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評議員会・地域教育推進会を毎学期実施する。 年4回の学校公開に学校関係者を招待する。 運動会や展覧会など大きな行事について、学校関係者を招待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価アンケート「本校は、地域を愛する子を育てるために、篠崎や江戸川区のことを学ぶ学習や地域に向く学習活動、地域の方を招いた学習活動を、学年に応じて実施している。」の肯定的回答90% 学校関係者評価アンケート「本校では、運動会や展覧会などの学校行事や授業を参観する機会を設定している。」の肯定的回答90% 	A A	<ul style="list-style-type: none"> 学校関係者評価アンケート「本校は、地域を愛する子を育てるために、篠崎や江戸川区のことを学ぶ学習や地域に向く学習活動、地域の方を招いた学習活動を、学年に応じて実施している。」 ○肯定的回答100% 学校関係者評価アンケート「本校では、運動会や展覧会などの学校行事や授業を参観する機会を設定している。」 ○肯定的回答100% 	A <ul style="list-style-type: none"> 学校公開、展覧会では、熱心に学習に取り組んでいた。展覧会の作品は、一人一人の個性が発揮されていてすばらしかった。 子ども達の活躍の場を参観できることを嬉しく思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 来年度の行事を基に、ご来賓を招待する行事について把握し、確実に次年度に引き継ぎ、早めに案内状を送るようにする。 地域に向く学習活動を各学年で計画する。
特色ある教育の展開	<p><働き方改革の推進></p> <p>「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施</p>	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌組織を機能的に運用。 会議での検封内容精選や進行方法の工夫し、45分以内で行うようにする。 口頭による打ち合わせは、事前申請制にして、C4th活用による業務連絡の効率化を図る。 定時一斉退勤日を月に1回設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> 会議は、45分以内で実施。 全教職員の超過勤務時間について、月45時間以内とする。 	B C	<ul style="list-style-type: none"> 会議の効率を図るため、内容を事前に周知することが十分にできなかったことがあった。そのため、意見をもつての会議参加とならずに45分以上の時間がかかることがあった。 超過勤務、月45時間以内の教職員の割合 ●4月10%、5月35%、6月7%、7月57%、8月100%、9月32%、10月42%、11月50%、12月50%、1月60%。 	A <ul style="list-style-type: none"> 仕事の軽重を考え組織編制を見直す。 部会から企画まで2週間ほど空ける。 C4th連絡板の既読を学年主任が確認し、全員への周知を確実にする。 一斉退勤日を毎月末に設定する。 各自が全校での取組内容を確実に実施。 提案を吟味して提出し、修正を減らす。 作成した教材は、学年ボックスにて引き継ぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> 農園ボランティアの方とも連携を図り、教員向けの事前のレクチャーなどを実施する。 年間指導計画の通り、農園での栽培活動を行う。 毎月、学級ごとに草取りや水やりなどに取り組む計画に基づき、担任が指導する。
	<p><農園活動の充実></p> <p>農園の活用を通して、植物栽培の体験などを充実させ、感性を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 理科や生活科、総合的な学習の時間等の指導計画に沿った栽培や観察を実施する。 全校朝会の校長講話で地域の自然についての関心を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親しんでいますか。」の肯定的回答90% 	A B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「農園では、水やりや草とりをしながら、草花や野菜を育てたり、昆虫を観察したりして、自然と親しんでいますか。」 ●肯定的回答79% 	A <ul style="list-style-type: none"> 140周年記念に関わる行事が素晴らしかった。特に、子供達の学びの様子が分かる展示物や発表の様子は、感動した。 校内の資料室、郷土資料室が立派であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「開校140周年記念誌」や「資料室」郷土資料室を活用する計画を立て、地域の学習に生かす。 各学年で地域に根ざした教育活動を計画実施する。
	<p><地域の環境や伝統を生かした教育活動の充実></p>	<ul style="list-style-type: none"> 生活科、社会科、総合的な学習の時間を中心に、体験活動や地域への訪問等の学習を年間指導計画に位置付ける。 140周年に関連する学習、行事を年間指導計画に位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「篠崎の町や江戸川区のことを学ぶ学習にすすんで取り組んでいますか。」の肯定的回答90% 学校評価児童アンケート「ゲストティーチャーの授業や校外学習の体験的な学習は楽しいですか。」の肯定的回答90% 	A A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価児童アンケート「篠崎の町や江戸川区のことを学ぶ学習にすすんで取り組んでいますか。」 ●肯定的回答86% 学校評価児童アンケート「ゲストティーチャーの授業や校外学習の体験的な学習は楽しいですか。」 ○肯定的回答94% 	A <ul style="list-style-type: none"> 140周年記念に関わる行事が素晴らしかった。特に、子供達の学びの様子が分かる展示物や発表の様子は、感動した。 校内の資料室、郷土資料室が立派であった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「開校140周年記念誌」や「資料室」郷土資料室を活用する計画を立て、地域の学習に生かす。 各学年で地域に根ざした教育活動を計画実施する。